

令和6年度 接続期カリキュラム研究推進地区 東本郷地区研究報告（2年目まとめ）

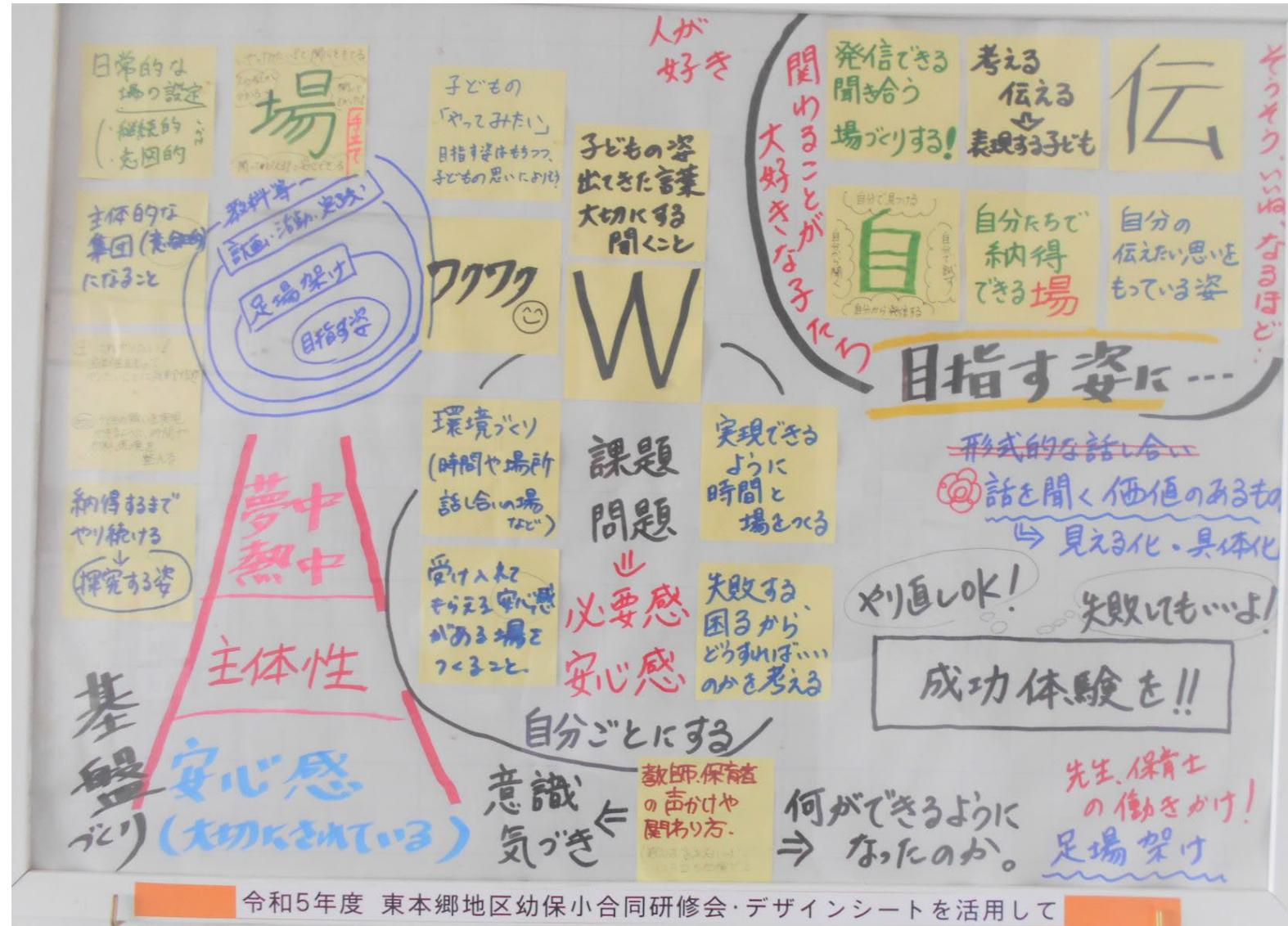
子どもの主体性を引き出し、育むかけ橋期の保育・教育
～「学びの芽生え」を「自覚的な学び」につなぐカリキュラムを創造する」～

横浜市立東本郷小学校・横浜市鴨居保育園

接続期カリキュラム研究推進地区 東本郷地区 これまでの取り組み

令和5年度		
時期	職員	子ども
4, 5月	4月19日スタートカリキュラム保育士参加（3クラス） 5月18日年間計画立案打合せ 5月25日授業研究会	1年生 おたまじゅくし飼育の情報共有
6, 7, 8月	7月23日 授業研究会 7月19日1年生担任保育参加 8月23日 3年生担任保育参加	6月 1年生交流散歩計画（感染症流行のため中止） 7月 1年生からおたまじゅくしひックブックを受け取る動画でお礼、感想の返事
9, 10, 11, 12月	9月22日授業研究会参加 11月29日幼保小合同研究 11月30日授業研究会参加	10月 1年生 シャボン玉交流散歩
1, 2, 3月		
令和6年度		
4, 5月	4月8日 新年度打合せ（東本郷小） 保育士による入学初日一年生受け入れ	
6, 7, 8月	7月8日幼保小環境構成研修 7月9日 授業研究会参加	6月27日 東本郷小学校校庭にて1年生と水遊び交流
9, 10, 11, 12月	9月12日 授業研究会参加 11月19日授業研究会参加 12月9日幼保小合同研修	9月30日 1年生「石の博物館」に参加 12月13日 1年生 散歩交流 12月1年生 1年生「光のワンダーランド」に参加
1, 2, 3月	1月28日 授業研究会参加	2月5日東本郷公園 1年生・年長冬遊び交流

1 園と小学校の子どもの姿の共有から カリキュラムを創造する



子どもの
「やりたい」
「伝えたい」
を引き出し、実現
するための環境、
教師・保育士の手立
てを一緒に考えて
行こう！

小学校の環境的な関わり

- ・人 クラスマイト、他学年、保育園児、職員（大人）
- ・物 石・光・色水
- ・時間 生活科の時間と休み時間など
- ・場所 教室前の広場・常設のテント・視聴覚室

2 授業研究会に参加し、互いの立場から子どもの姿を捉える

学校では子どもたちに向けてどんな働きかけや支援があるだろう？

7月・9月
11月・1月（年4回）
小学校授業重点研究会に
保育士が参加
生活科について意見交換

授業研究会を経て

環境（場やテーマ）
設定の工夫はどんな
ところにあるだろう？

園の遊びと小学校の生活科では同じような遊びの要素があるな。

学校の先生が目指す子どもの育ちってそういうことなんだ！

園の遊びにも生活科の中にも「やりたい」がいっぱい！

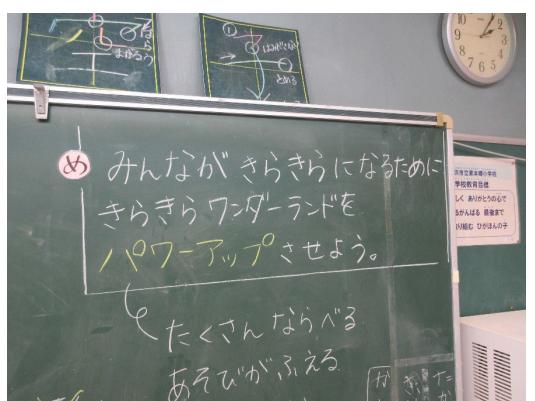
2 授業研究会に参加し、互いの立場から子どもの姿を捉える（1年生生活科）



1年生 石の博物館

子どもから出た小さなきっかけがクラスとしての活動へ

子どもの発見や学びの芽を教師がキャッチし、それをきっかけに、環境設定していくことで子どもが夢中になれる、継続した遊びや学びが展開していく。



1年生 光のワンダーランド



1年生が作り出した遊びに園児も参加



2 授業研究会に参加し、互いの立場から子どもの姿を捉える（2年生生活科）



1年生から2年生の生活科へ。いろいろな学年の授業を保育士が継続的に見られることで、子どもの成長、担任教師のねらいや支援の仕方も成長に合わせて変わってきてていることがわかる。そして、授業後の研究会で担任の思いが聞ける。年長からのかけ橋期の子どもの育ちを連続してみることが出来るのは価値あること。

3 スタートカリキュラムにつながる保育園の活動



年長クラスで継続して行っている サークルタイム

サークルタイムを続けることで、どの活動も自分たちで考え、決めていくことが習慣化されてきた。サークルタイムの中で話し合い、子どもの思いを聞き、「やりたい」を実現できるように環境を整えてきた。

3 スタートカリキュラムにつながる保育園の活動 (1年生との関わり)

一年生と校庭で水遊び



遊びの
共有

小学校で、園の普段の遊びを
1年生と一緒に楽しもう！



3 スタートカリキュラムにつながる 保育園の活動

ZOOM作品展（1年生との関わり）



日常の遊びの中で作っているレゴや塗り絵、「自分たちの作品を置いて作品展をやってみよう！」、保護者や他クラスに見てもらった後、「1年生にも見てもらいたい！」、校長先生に園に来ていただき、1年生の教室とZOOMをつないでみてもらいました。こうした活動が子どもたちの伝え合う力や自信につながっています。

3、スタートカリキュラムにつながる保育園の活動 (環境づくり)



水遊びの
様々な環境づくり



研究推進地区2年目までのまとめ

- ・昨年度に続き、1年生も年長児も個を大切にしながら一人ひとりと対話し、「やりたい」思いを引き出し、「伝え合う」ことを大切にする、という共通認識のもとカリキュラムを設定していった。
- ・小学校が中心となり、子どもの意欲や学びを生み出す「環境」に着目し、魅力的な場所や人、素材との関わりを模索してきた。保育園もそこにかかわりながら環境について一緒に考えていった。子どもが夢中になるスタート・カリキュラムと、それにつながる保育内容の連続性について深く考え、カリキュラムを作成していった。
- ・子どもが魅力的に感じる環境を見つけ、場所、人、物に夢中になって関わり、遊ぶことで、自信をもって自己発揮していくことがわかった。また、それが学校生活の大きな力となっていることにも気付かされた。
- ・架け橋期の子どもの連続した育ちを見していくことは保育・教育の見直しや改善、また、より良いカリキュラム創造のために意義あることであると感じた。

研究推進地区3年目に向けて

- ・かけ橋期の子どもの姿を、同一の担任が継続して追っていけることは保護者にとっても、子どもにとっても安心である。続けていくことが大切ではないかと思う。
- ・子どもの姿の共有の場設定、互いのカリキュラムの見直し改善を続けながら、来年度は「保育の環境」に着目してかけ橋期にアプローチしていく。（案）